

令和 6 年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号 (127) 学校名 豊田市立藤岡南中学校

1 テーマ

自ら地域とつながり、地域とともに生きる

2 ねらい

目指す生徒像である「広い視野をもち、よき地球市民として主体的に行動できる生徒」を育成したい。そのために、具体的な目的・課題を生徒自身が設定できる場として、地域と関わる機会を設定する。その中で、見通しを立てて活動することで、生徒たちは自分ごととして役割に責任をもち、学校で学んだ力を活かして主体的に取り組むことができると考える。

3 活動内容

4 月 ～10 月	○フジバカマの育成（地域の活性化） アサギマダラを飛来させるために第 3 フジバカマ園の造成・育成。環境委員の生徒が中心となって、観察や水やり。
5 月	○地域合同防災フェスタ（地域と連携） ・地震の揺れから身を守るシェイクアウト訓練 ・家具や書庫等の転倒防止対策 ・バケツリレーによる消火訓練 ・消火器を使った消火訓練 ・煙の怖さを実感する煙道体験 ・自力で避難できない人を助ける負傷者搬送訓練 ・胸骨圧迫や A E D を使用する心肺蘇生
7 月	○ホタル飛来に向けての活動（地域の活性化） 環境委員では、地域の方と協力して西中山川にホタルを増やすためにホタルの幼虫の餌となる「カワニナ」を学校で育成し、放流。
8 月	○ぞうきん製作ボランティア（地域高齢者クラブと連携） 3 年生ボランティアが、地域高齢者クラブの方々と一緒に、ぞうきんをミシンで製作。
1 0 月	○ふれあいフェスティバルでの発表等（地域と連携） ・防災に関する体験型ブースの設置。（内容：救急救命体験、煙道体験、避難体験、災害対応スキル講座など） ・魅力ある藤岡南地区について、来場者に様々な形態での披露。 （内容：地産地消を意識した地域洋菓子店とのコラボ商品販売、地域企業と連携した産業端材を活用した小物作り、地域緑化センターの紹介ブース、ポプリ＆ハーバリウム製作ブースなど）

4 成果と課題

保護者アンケートの「特色ある学校づくり推進事業を活用し、特色のある教育活動をおこなっているか」では、【とてもよい：19.2%、よい：60.7%】と8割程度の前向きな結果が出ている。ホームページやきずなネットを活用し、日常の様子やおたよりが家庭に伝わるようにしていることが大きな一因であると考えている。だが、【分からない】の項目が9.3%と減ってはいるが若干気になる。保護者の立場で考えた情報提供を心がけ、今後の活動に対する理解を得たい。

今年度も、昨年度に引き続き9月にアサギマダラの姿が目撃された。環境委員会が中心となって、4月当初から栽培育成を行ってきたフジバカマ園の管理を行ってきた成果であると考えている。

3年生は総合的な学習の時間で、地域の良さを伝えながら地域の人とともに「藤岡南地区」を盛り上げようと、公共施設や企業を訪問したり、講師として招いて思いを聞いたりした。その中で、自分たちが考える地域の良さや望ましい未来像と、講師の方々が語る地域像の相違点を比較し、地域のために自分たちに何ができるのかをそれぞれが考え、藤岡南ふれあいフェスティバルで実現させようと取り組んだ。

当日は、植物の魅力を知ってもらおうと緑化センターの方から教えていただいた香り袋の製作ブースを用意したり、地域の農産物を活かしたスイーツを地域の洋菓子店と協同で開発・販売したり、地域企業と協同して製造時に出る端材を活用したSDGs企画を行ったりするなど、積極的に連携した取り組みを行った。自らが企画した活動を地域の方々と共にする中で、「自分たちも地域の一員である」という思いがより大きくなった。今後も思いをかたちにするための手立てを工夫し、生徒主体で地域に働きかけられるよう支援していきたい。

校内整備員が配置されたことで手入れが行き届き、緑豊かに校地内環境を維持することができた。また、生徒が作業しやすいように道具置き場が整備されたことで、準備片付けにかかる時間が削減され、実質的な活動時間を増やすことができた。

心の相談員、スクールカウンセラーが配置されたことで、教師ではない立場からのアプローチが可能となり、多様な悩みをもつ生徒が前向きに学校生活を過ごすようになっていく。本年度については、校内は一とラウンジの場所をより広い教室に変えて、一人一人が安心して過ごしやすい空間づくりに心掛けた。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・フジバカマの育成やアサギマダラの飛来等、ホームページで適宜更新（計6回）した。
- ・学校だよりで、取り組みについて紹介（計7回）した。
- ・藤岡南ふれあいフェスティバルでは、特色ある学校づくり推進事業の取り組みについて、発表や体験ブースを通して、保護者や地域の方にも参観していただいた。